

公民科 倫理学習指導案

広島県立広島高等学校
指導者 門田 寛一

1 教科のテーマ 社会的な見方・考え方を活用した授業の開発と実践

2 日時 令和7年11月6日(木) 第4時限(13:00~13:50)

3 対象 第2学年4・5組 21名

4 場所 第2学年5組教室

5 単元名 第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方
第3章 現代の人間と社会をとらえる思想

6 単元について

(1) 単元観

高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説公民編 倫理 における大項目A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 では、「(ウ)善、正義、義務などに着目して、社会の在り方と人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な倫理観について理解すること」ができるよう指導すると示されている。また具体的に、「正義」については、高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説公民編 倫理 において、「それぞれ異なる他者といかに関わるか、社会生活を成り立たせる公正・公平な仕組みとはどのようなものなのか、などについて思索する視点である」と示されている。加えて、「社会の在り方と人間としての在り方生き方について思索する」ことについては、「自らが生きる国家や社会の在るべき姿について思索を深め」とともに、「人間存在の根本性格を問う」ことを通して、「自分自身に固有な選択基準ないし判断基準を形成できるようにすることを目指す」としている。これらを踏まえ、授業で「正義」について扱う際には、「他者といかに関わるか」や「人間とはどのような存在か」を思索しつつ、自分自身の考える「正義」の在り方や判断基準を形成することが求められていると考える。

また、これらの大項目Aを学習した先には、大項目B 現代の諸課題と倫理 の「(1) 自然や科学技術に関わる諸課題と倫理」が設定されており、そこでは、「科学技術と人間の関わり」について探究する場面が想定される。この単元では、「自然や科学技術との関わりにおいて、人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ」ることが求められており、高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説公民編 倫理 では「人工知能(AI)をはじめとした先端科学技術の利用と人間生活や社会の在り方について」思索することが示されている。近年の科学技術の発達はめざましく、特に人工知能(AI)は驚異的な進化を続けており、人間の判断力や思考力を超えつつあると予測されている。このAI技術は、情報処理や自動運転などで安全性や効率性を高め、人間に多くの恩恵を与える一方で、新たな倫理的課題を生み出している。それが先鋭化したものが、AI技術を軍事利用した自律型AI兵器の問題である。このような現代の倫理的諸課題は、「人間として科学技術(AI兵器)にどのように関わるべきか」、「そもそもAI兵器の運用・開発は正しいのか」といった明確に答えを出すことが困難な問いを生む。さらに言えば、AI兵器の出現は、これまでも問われてきた「正当な理由があれば戦争は正当化されるのか」、「戦争における「正義」とは何か」といった問いをさらに複雑なものにしている。

以上から、本単元について扱うことは、現在まさに議論されている国際問題であるAI兵器について扱いつつも、生徒に「正義」の在り方について問い直し、その概念の複雑さを再認識させ、「自分にとっての「正義」とは何か」という普遍的な視点で倫理観を問い直すことができる単元であると考えられる。また、後の大項目Bにおける探究学習の場面でも、より発展的に科学技術(人工知能)に関して思索させることができ、総合的に公民として

の資質・能力の育成につながると考える。

(2) 生徒観

本校では、年に2回実施している授業アンケートにおいて、「深い学び」の最高評価（「やや当てはまる」ではなく「当てはまる」と回答した生徒）の割合が60%以上であることを目標としている。「深い学び」は「一つの単元で身に付けた知識や技能を別の単元や教科の学習などに生かそうとしている。」と「授業の中で深く思考し、単元の前と後で新しいものの見方や考え方を得た。」という項目によってその実態を見取っている。1学期末に実施した倫理の授業に関するアンケートでは、「授業の中で深く思考し、単元の前と後で新しいものの見方や考え方を得た。」という項目で最高評価をした生徒は75.6%であったのに対し、「一つの単元で身に付けた知識や技能を別の単元や教科の学習などに生かそうとしている。」という項目で最高評価をした生徒は60.0%であった。このことから、授業を通して問題を考察するための知識及び技能は定着している一方で、それらを活用して、多面的・多角的に考察したり、構想・説明したりすることには課題があると分析した。

また、授業では答えが一つに定まらない問いを日常的に課しており、知識を活用して考察する場面を設けているが、ワークシートには授業で学習した語句や内容をまとめてはいるものの、それらの知識を活用する思考力、判断力、表現力等に関して、次の三つの課題が見られる。①身に付けた先哲の思想や見方・考え方を使得って考察しているのではなく、自身の直観のみで問いに回答しており、知識を活用するまでに至っていない。②直観ではなく論理的に考えてはいるものの、問いの正解を求めようとするあまり、自分が立てた予想を深めることができていない。③学習した知識を活用し、論理的に自分が立てた予想を深めたとしても、周囲の生徒と対話することで、他者の意見に同調して自身の意見を追究できていない。以上のような課題を総合して、思考力、判断力、表現力等が不十分であると分析した。

(3) 指導観

思考力、判断力、表現力等が不十分である生徒実態を踏まえ、生徒が思考・判断しやすく、かつ思考・判断をより深めるために、単元内に設定した大小の問いの工夫や精選をした。そもそも、(1) 単元観で示したように、「戦争における「正義」とは何か」といった、ただでさえ難解な問いが、AI兵器の登場により、さらに複雑化している状況がある。そのため、この題材で思考をする際に、「科学技術の発達は人命よりも優先すべきか」といった二項対立型の問いは、かえって複雑な問題を過度に単純化させ、思考に深まりが生まれないと考えた。また、本単元では、「科学技術（AI兵器）は今後、どのように在るべきか」といった、科学技術に対する基準や倫理観を問う問いや、「AI兵器の自律性は功利主義や義務論の考えを用いるとどう解決できるか」といった、先哲の思想を活用して考察させる問いも扱うが、単元の本質は、(1) 単元観でも示す「正義」について、つまり「異なる他者といかに関わるか…（中略）…などについて思索する」ことである。以上の理由から、本単元を貫く問いとして、「科学技術が発達する現代において、人間は他者とどう関わるべきか」という問いを設定した。この明確な答えがない大きな問いに向けて、各時間における問い「7時間目の問い：「兵器の自律性の5段階」を踏まえると、兵器の自律性をどこまで高めるべきか」、「9時間目の問い：AI兵器による犠牲者の責任は誰が負うべきなのか」の考察を通して迫っていきたい。

7 単元の目標

- 善、正義、義務などに着目して、社会の在り方と人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な倫理観について理解する。〔知識及び技能〕
- 科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて、古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察する力や、表現する力を養う。〔思考力、判断力、表現力等〕
- 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、

他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕

8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 善、正義、義務などに着目して、社会の在り方と人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な倫理観について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて、古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている。

9 単元の指導計画

○「評定に用いる評価」

●「学習改善につなげる評価」

次	時	学習内容・学習活動 ◇学習活動の概要 ・学習活動の具体	学習評価			
			知	思	主	評価方法
I	1	<ul style="list-style-type: none"> ◇より良い社会の実現のために、人間をどのように捉えた上で、どのような社会を理想としたのか理解する。 ・ホッブズ、ロック、ルソー、啓蒙思想などの思想を踏まえ、現代に与えた影響などを理解する。 ◇単元を貫く問い「科学技術が発達する現代において人間は他者とどう関わるべきか」について、学習課題を設定するとともに、課題解決への見通しを立てる。 	●			・ワークシートの記述の様子
	2	<ul style="list-style-type: none"> ◇カントの認識論と道徳論が、これまでの思想をどのように批判しているかを理解した上で、現代社会に対してもつ意義について考察する。 ・経験論と合理論の両者を批判しつつも統合した、カントの認識論について理解する。 ・カントの義務論（動機主義）について知り、その歴史的意義や現代社会における意義について考察する。 	●	●		・ワークシートの記述の様子
	3	<ul style="list-style-type: none"> ◇ヘーゲルの弁証法に基づく歴史観について理解し、進歩史観について考察し、自分の考えを表現する。 ・ヘーゲルの弁証法や人倫、絶対精神などの概念について理解した上で、進歩史観の功罪について考察し、表現する。 		○		・ワークシートの記述の様子
	4	<ul style="list-style-type: none"> ◇功利主義の考え方や意義や問題点を理解し、それを踏まえて考察した思考実験について、自分の考えを分析する。 ・Aスミスやベンサム、ミルの思想を理解した上で、功利主義の思想とカントの義務論の思想を活用して、思考実験「ザ・パイオリニスト」について考察した自身の考えを分析する。 		○		・ワークシートの記述の様子
	5	<ul style="list-style-type: none"> ◇実証主義などの思想を理解し、進歩史観について再考する。 ・ヘーゲルや実証主義の思想を活用し、歴史観（進歩史観、現代社会があるべき姿など）について考察する。 	●	●		・ワークシートの記述の様子

	6	◇社会主義思想の思想や現代社会にもたらした影響について考察する。 ・空想的社会主義者やマルクスが社会や人間をどのように捉えたかについて知り、より良い社会の在り方を思索するための手掛かりとなる社会主義の考え方について理解する。	●			・ワークシートの記述の様子
	7	◇AI兵器の自律性の議論について知り、AI兵器の自律性をどこまで高めるべきなのか、課題意識をもち、考察する。 ・国際的に議論となっている「兵器の自律性の5段階」を基に、自律性をどこまで高めるべきか、先哲の思想や概念（功利主義、動機主義）を手掛かりにして思索を深める。		○		・ワークシートの記述の様子 ・発表の様子
II	8	◇西洋現代思想から、AI兵器の問題を考察するための新たな見方・考え方を得る。 ・ハンス・ヨナスの「世代間倫理」の思想や、レヴィナスの「顔」に関する思想から、AI兵器について考察するための「他者」や「責任」という概念について理解する。 ・人間は他者に対してどこまで責任を負うべきかを考察し、AI兵器の自律性を高める際に留意すべきことについて自分の言葉で表現する。	●	●		・ワークシートの記述の様子
	9	◇AI兵器による犠牲者の責任は誰が負うべきなのかを考察し、科学技術が発達する現代において、人間は他者とどのように関わるべきかを追究する。 ・AI兵器による犠牲者の責任は誰が負うべきなのか、先哲の思想や概念（功利主義や動機主義、西洋現代思想等）を手掛かりにして考察する。 ・これまでの学習内容とアーレントの思想を踏まえ、AI兵器をはじめとする科学技術が発達する現代において、人間が他者とどのように関わるべきか、追究しようとしている。		○	○	・ワークシートの記述の様子 ・発表の様子
III	10	◇単元を貫く問い「科学技術が発達する現代において人間は他者とどう関わるべきか」について、これまでの学習を踏まえて考察し、自分の考えをレポートにまとめ、発表する。 ・既に学習したレヴィナスの「他者論」とこれから学習するサルトルの「自由論」について概略を確認する。 ・AIには「当事者性」が無く、行為への責任は追究できない反面、人間には行為に対して無限の責任が発生することを踏まえ、「科学技術が発達する現代において（AIと異なり、）人間は他者とどう関わるべきか」について、単元で学習した内容を踏まえて考察し、レポートにまとめる。	○	○	○	・ワークシートの記述の様子

10 本時の展開（本時：9／10）

(1) 本時の目標

- AI兵器による犠牲者の責任は誰がどの程度負うべきなのか、先哲の思想を手掛かりにして多角的に考察し、自分の考えを具体的に表現する。〔思考・判断・表現〕
- 学習内容とアーレントの思想を踏まえ、AI兵器をはじめとする科学技術が発達する現代において、他者とどのように関わるべきかを主体的に追究する態度を養う。〔主体的に学習に取り組む態度〕

(2) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点（・） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て）	評価規準・評価方法等
導入（15分）	1 前時までの学習を踏まえて、単元を通して考えてきたことや目指していることを確認する。（2分）	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド資料等を用いて、短時間でこれまでの学習の振り返りを行う。 ◆前時までの2時間で記述したワークシートを確認させながら振り返らせる。 	
	<p>単元を通して考えてきたこと（これまでの問いなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの戦争・紛争（沖繩戦やアフガニスタン戦争）では多くの民間人が犠牲となった。現在、より犠牲者を少なく省人化、省力化をめざす観点から、AI兵器の開発、導入が進みつつある。 ・国連は「完全自律型」は禁止しつつも、AI兵器の効力は認めている。ベンサム功利主義やカントの動機主義などを活用し、どこまで自律性を高めるべきか、ひとりひとり考えてきた。 ・新たな問い「誤作動や暴走のリスクが全くなく、適切に機能する場合ならば、AI兵器の自律性はどこまで高めるべきなのだろうか」について考え、前時は現代思想のレヴィナスやハンス・ヨナスの「責任」思想について学習した。 		
	2 「AI兵器を導入した架空の話」を読み、この状況下で発生した犠牲者に対して、誰が責任を負うべきかを考察する。（5分）	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの時間は「AI兵器の自律性をどこまで高めるべきか」という導入以前の考察をしていたが、今回は導入を想定して考察することを伝え、次の話を示す。 ◆話の登場人物について着目させる。 	
<p>AI兵器を導入したA国の話</p> <p>A国では、技術者により技術開発が進み、「高度自律型AI兵器」（現実の世界で実現していないものの、完全に禁止までされていない「第4段階」）が開発されました。このAI兵器の戦場への導入がA国の国内で決定され、実際に戦争で使用されることになりました。この兵器は、指揮官が事前に決定した攻撃目標にもとづいて、戦場で敵兵を正確に識別し、攻撃を行います。ただし、このAI兵器が起動するには、戦場に共に入ったA国の兵士が電源スイッチを押す必要があります。この結果、敵兵が大量に（数百名）死亡しましたが、民間人は犠牲になっておらず、戦場のルールは守られており、誤作動や暴走は一切ありませんでした。</p> <p>問題 この場合、AI兵器が「適切に機能した結果」、犠牲者が発生している。この犠牲者に対して、責任を負うべきなのは誰だろうか。</p> <p><予想される生徒の課題意識></p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦場でAI兵器を導入すると大量に犠牲になることはわかっていたはず。だから、指揮官に責任がある。 ・誰か一人に責任があるわけではなく、それぞれの人に少しずつ責任があると思う。責任が分散する？ ・そもそも、誰も責任を取る必要はないと思う。戦場では死人が出るのは必然だし、誰にも責任は無いと思う。 			
3 このストーリーにおいて、誰が責任を負うべきか、率直な意見を共有し、「責任者」の特定が難しいことに気付く。（8分）（ペア⇒全体）	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で意見を共有させることで、複数の登場人物（複数の役割）に責任があることに気付かせ、次の問題を考察させるきっかけにする。 ◆「責任は誰か一人だけにあると言い切れるだろうか」と言葉掛けをする。 		
<p>問題 AI兵器による犠牲者の責任は、誰（どの役割）がどの程度負うべきなのだろうか。全体の責任を100%とした場合、誰（どの役割）が何割の責任を負うべきか考えよう。</p>			

4 帯グラフに誰が何割程度責任を負うべきかを図示し、その理由をまとめ、自分の考えを共有する (15分)
(個人⇒ペア⇒全体)

・ワークシートにある帯グラフに誰にどの程度責任があるかを記入させる。
◆ストーリーにはどのような登場人物が出てきているかを問いかけ、割合を考える際の手助けとする。

AI兵器による犠牲者の責任は誰がどの程度負うべきなのか、先哲の思想を手掛かりにして多角的に考察し、自分の考えを具体的に表現することができる。[思考・判断・表現](ワークシートの記述の様子)

予想される生徒の解答例1：技術者に責任を集中させるパターン

技術者 60%	指揮官 30%	兵士 10%
------------	------------	-----------

理由：技術者は兵器の技術を提供したから、最大の責任を負うべき。前の時間に学習したハンス・ヨナスも「未来に対する責任」を主張していたように、誰がどのように使用するかを考えず、命を奪う技術を開発することが良くない。兵士はスイッチを押しているけど、「命令に従っただけ」という点で責任は少ないと思う。

予想される生徒の解答例2：政治家と指揮官に責任を集中させるパターン

A国の政治家 50%	指揮官 35%	国際社会 10%	兵士 5%
---------------	------------	-------------	----------

理由：政治家が戦争を引き起こした張本人だから、この犠牲は政治家が責任をとるべき。また、実際に戦場にAI兵器を導入する決定をしたのも政治家だから。そして、実際に現場で攻撃目標を決定したのは指揮官なので、指揮官にも責任がある。そして、国際社会も、A国を止められなかったので若干の責任はあると思う。

予想される生徒の解答例3：全体的に責任を分散させるパターン

A国の政治家 20%	指揮官 20%	技術者 20%	国際社会 20%	兵士 20%
---------------	------------	------------	-------------	-----------

理由：政治家は関係者の思いを代表する立場なので責任は分散される。指揮官も技術者も重要だが、他とのバランスをとる。国際社会も、AI兵器を規制する条約などに向けて努力すべきだったができなかった点で、責任を感じるべき。兵士も自分の倫理観に照らし合わせて拒否すべきだった。カントの目的の王国を踏まえると全員責任をとるべき。

5 追加で与えられた問題について考えることを通して、現実に関心をとることの難しさについて気づく。(2分)

・教室内の思考の深まりに応じて、次のような問題を示し、「責任の消失」について考えさせる。

- 問題1 今回、帯グラフや数値 (%) で考えたが、現実はこのように数値で示すことは難しい。この責任分担が曖昧になった場合、誰が責任を取るべきだろうか。
- 問題2 仮に、登場人物が他の登場人物に責任転嫁を繰り返した結果、責任そのものが消失してしまうことがある。このような状況をどう考えるか。
- 問題3 そもそも、現実の戦争行為は誰に責任があるのか。戦争責任を追究することは可能なのか。

6 第二次世界大戦中にユダヤ人の大量虐殺に関与したアドルフ・アイヒマンの例とその裁判結果、それを分析した哲学者アーレントの思想について知る。(8分)

・アイヒマン裁判とそれを分析したアーレントの思想を説明する。

アイヒマン裁判とそれを分析したアーレントの思想の説明概略

アドルフ・アイヒマンはナチス親衛隊として、ユダヤ人の強制収容所への「移送計画」を指揮した。彼自身が虐殺したわけではないが、ユダヤ人の移送計画を立案・運営を実行した結果、約600万人のユダヤ人が虐殺されることになった。ヒトラーは終戦直前に自殺したが、アイヒマンは戦後に逃亡し、1960年に捕まり、裁判にかけられた。この裁判で虐殺の責任を問われたアイヒマンは、裁判で一貫して次のように釈明した。「私は命令に従っただけです。拒否すれば、処刑されていたでしょう。」「私は物理的な殺人を一度も行っていない。私は交通の管理者だったのです。」ユダヤ人哲学者アーレントはアイヒマン裁判を傍聴し、彼の姿に衝撃を受け、「アイヒマンは怪物ではなかった。ただの平凡な官僚だった。」と表現した。そして彼女はこの現象を「悪の凡庸さ (the banality of evil)」と名付けた。これは、思考を停止した人間が、巨大な悪に加担する構造を示す言葉である。

	<p>7 ①AI兵器の自律性が高まることにより責任の所在が不明確・曖昧になる「違和感」と、②アイヒマン裁判に対するアーレントの分析・考察がもたらした「違和感」の正体は何か、それが生まれるのはなぜか、「違和感」を無くすことは正しいのかについて、「問題」を考察し、自分の言葉で自分の考えをまとめる。(8分) (個人⇒ペア⇒全体)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヒマンに対して責任追及をしようとした国際社会(や被害者であったユダヤ人)は、アーレントの分析・考察に納得がいかなかったという当時の状況を伝えるとともに、この事例と合わせてAI兵器の問題にも生じる「違和感」について、その正体や原因について考察させ、自分の言葉でワークシートに表現させる。 ◆教室内の状況(考えることが難しい生徒の割合や、全体の進捗状況)などを踏まえて、追加で次のような「問いかけ」を行う。 ◆「違和感」という感覚を共有しやすいよう、「モヤモヤ」、「納得できない感情」などという言葉で言い換える。 	<p>既習事項とアーレントの思想を踏まえ、AI兵器(科学技術)が発達する現代において生じる「違和感」について考察することを通して、人間が他者とどのように関わるべきかを主体的に追究しようとしている。「主体的に学習に取り組む態度」(ワークシートの記述の様子、発表の様子)</p>
	<p>問題 ①AI兵器により責任の所在が曖昧になる「違和感」②アーレントの分析・考察がもたらした人々への「違和感」について…(1)①と②の2つの「違和感」の正体は何か。(2)この「違和感」はなぜ生まれるのだろうか。(3)この「違和感」は解消すべきものだろうか。</p>		
	<p>問いかけ1 技術が進めば進むほど、誰も責任を取らない(責任を取らなくても良い)社会が生まれるならば、あなたはどのように行動するだろうか。誰も責任を取らなくても良い社会とは、本当に正しく幸福な社会と言えるのだろうか。</p> <p>問いかけ2 アイヒマンが「ふてぶてしい大悪人」であれば、この裁判がもたらす印象は変わるのだろうか。そのような状況の場合、責任はアイヒマンだけにあるのだろうか。</p>		
<p>まとめ (2分)</p>	<p>8 問題について、考えたことを全体で共有し、人間としての在り方生き方について確認するとともに、倫理という科目を学ぶ意義について再認識する。(2分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少しだけでも全体で共有し、現在開発・導入が進むAI兵器や科学技術に対して、人間がどのように関わるべきか、全体で共有する。 ◆「AI兵器の自律性向上」と「戦争責任」に共通する「明確に答えが出ない違和感」と対峙して考え続けることそのものが、人間の在り方として重要であることに気付かせたい。このことは、倫理という科目が「短時間で答えを出す」という科学技術が重視することとは異なることを重視していることを示唆してもいる。 	

11 主体的な学びを促すポイント(深い知識・技能の活用、協働的な学び、個別最適な学びなど)

<p>単元を通して「深い学び」が実現できるように、本時では単元の導入として授業者が「問い」を投げかける場面が多くある。この際、次の2点を踏まえて「問い」を設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、国際社会でまさに喫緊の課題として議論の渦中にある「AI兵器の自律性をどこまで高めるべきか」について扱うことで、現代に生きるひとりひとりが自身の倫理観や考えから自分の意見をもつことができるようにしている点。 ・「AI兵器は是か非か」という単純な二元論や抽象論ではなく、「AI兵器が仮に(このような状況下において)導入されて、実際に犠牲者が出た場合、誰にどの程度の責任が生じるか」という現実的かつ具体的な問いを設定することで、より現実的かつ具体的に「責任」について考察させようとしている点。 <p>また、今回、単元設計をする上で、西洋思想の終盤にこの「科学技術に対する人間としての在り方生き方」を設定したのは、昨今急速に発達する科学技術(AI技術)が目指す「迅速に最適解を目指す」と対比させて、倫理という科目がもつ意義である「答えがすぐには出ない問いを考え続けること」や「真善美について問い続けること」の大切さに気付かせたいというねらいがある。</p>
--

資料（この内容については、本単元の7時間目に生徒に示している。）

兵器の自律性の5段階（※現在のドローン兵器は第2～3段階）

第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階
手動型	補助型	半自律型	高度自律型	完全自律型
兵器はただの道具で人間がすべて直接操作する。	自動照準など機械が補助するが操作も攻撃判断も人間。	兵器が自律的に目標選定・攻撃するが人間が介入・停止可能。	兵器が自律的に目標選定・攻撃する。人間は監視しているが、介入は困難。	兵器が目標の選定・攻撃すべてを行う。人間は介入できない。

（「米国防総省（DoD）指令 3000.09」、2023年）

2025年現在の立場・見解

国際連合	日本政府
<ul style="list-style-type: none"> ・完全自律型のAI兵器（LAWS：自律型致死兵器システム）に対して禁止する決議案が出された（2023年12月）。 ・事務総長も「AIの暴走による被害拡大」を懸念。早急に禁止するよう主張。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国連と同じく日本も禁止する方向性を示す（2024年6月）。 ・責任を負う指揮官や操作者の特定が困難である。

（外務省「通常兵器の軍縮及び過剰な蓄積禁止に関する我が国の取組」「自律型致死兵器システム（LAWS）について」、2024年6月24日、https://www.mofa.go.jp/mofaj/dns/ca/page24_001191.html）